

第2回安曇野市誌編さん委員会 会議概要

1	会議名..... 第2回安曇野市誌編さん委員会...
2	日 時..... 令和2年8月17日(月) 午後1時30分から午後3時まで...
3	会 場..... 安曇野市役所...3階... 共用会議室307...
4	出席者..... 上角委員、窪田委員、倉石委員、小松委員、笹本委員、梅干野委員、宮崎委員...
5	欠席者..... 高原委員...
6	市側出席者..... 橋渡教育長、山下文化課長、財津博物館係長、逸見博物館係主査、平沢文書館長、那須野博物館係員、高橋博物館係主事
7	公開・非公開の別..... 公開...
8	傍聴人..... 0人..... 記者..... 0人
9	会議概要作成年月日..... 令和2年8月17日...

会 議 事 項 等

○会議の概要

1 開会 (山下文化課長)

2 あいさつ (橋渡教育長)

3 協議

(1) 安曇野市誌編さん構想 (素案) について

事務局 ・『安曇野市誌』編さんの全体構想 (案) について説明

委員 ・安曇野市文書館が開館し、活用環境が整ったことが市誌編さんの第1目的ということでは、市誌を編さんする理由付けとしては弱いと感じる。寧ろ「安曇野市としての歴史や文化を明らかにすることで、子どもたちの郷土を愛する心を育み、市民にふるさと安曇野への誇りを持ってもらうこと」を第1目的として進めていただきたい。

・編さん体制に市民との協働を行う組織づくりを取り入れていただきたい。

・安曇野市にとって必要な市誌とは何であるか検討いただきたい。安曇野市として外せない要素を市民需要から考えていただきたい。

委員 ・事業計画に示されている書籍の構成は、分野ごとに分かれた各論となっている。この各論を総括する総論をまとめて、各論に結び付ける仕組みも考えていただきたい。

委員 ・市誌編さん活動は長期間に渡る業務となる。編さん活動の過程を市民に可視化することにより、編さん段階から市民が身近に感じられる工夫を考えていただきたい。

事務局 ・市民との情報共有を図っていくためにも、ホームページの作成は早く進めたい。

委員 ・ホームページの作成費や維持費などの算出が必要となる。市のホームページの一部とするのか。

事務局 ・ホームページの機能や設定については、作り方により費用が大分変わってくる場所なので、具体的な構成も含め、早急に検討したい。

委員 ・「子どもたちの郷土を愛する心を育む」という市誌の目的は素晴らしい。実際の学校現場での活用を想定している場合、単なる子ども向けの書籍の編さんだけでは不十分に感じる。教材を活用する教員との連携、教材を使用したときの子どもの反応などを随時検討事項としながら編さん活動を行う必要がある。そうした活用までを含めた体制作りを検討していただきたい。

事務局 ・第1回会議においても学校現場での活用が提案された。今後の検討課題とさせていただきたい。

委員 ・市誌編さんの目的には子どもにもっと安曇野市を知ってほしいということがある。第1回会議の内容を踏まえ、子ども版の計画を具体的に提案していただいた。現在、学校現場では「探求的な学び」に対する取り組みがなされ始めている。「探求的な学び」を市誌で行えるようにするため、編さん過程から児童・生徒や教員と双方向に情報共有が行われれば良いと考える。

委員 ・事業計画では、資料編と子ども版が同一の行に書かれているが、これは1冊にまとめるということか。

事務局 ・資料編と子ども版は別に刊行する。特に子ども版はPDFデータを前提に編さんしていく。

委員 ・子ども版は誰が執筆するのか。従来の書籍では、研究者が作れば難しい用語ばかりになり、教

- 員が作れば専門的知識が足りていない部分が散見された。この問題を解決するためには、子ども版の題材を実験的に学校現場で活用してみる等の試みが必要になると考える。
- ・電子データでの提供を最終的に考えているのであれば、資料編は内容を縮小せず、全ての資料を掲載していただきたい。
- 委員
- ・市誌の編さんとともに、子どもたちに活用する仕組みづくりを考えていただきたい。安曇野市の以前の政策でも、冊子等を作成して活用が十分にされていないものもある。また、学校現場と市内で生涯学習活動を行っている団体との連携も十分されていない現状もある。
- 委員
- ・子ども版の内容は講座などの通常業務の中で、試行錯誤が可能なこともあるので検討いただきたい。
- 委員
- ・学校現場では、受験対策などが優先されており、地元のことを知っても社会的価値にはならないという認識がある。地元のことを知っていることが社会価値として認められるという保証を教育委員会全体で考えてほしい。
- (2) 民俗編の構想について
- 事務局
- ・民俗編の構想について（案）の説明
- 委員
- ・「昔から」とはいつからのことを指すのか。民俗伝承は時代とともに変化している。民俗学の調査対象が古老に限定されていることには違和感を覚える。子どもや壮年にはそれぞれの民俗事象があるのではないか。
 - ・自治体の区域分けを重視しない記述になるという説明だったが、政治的な領域が民俗事象に与える影響を軽視しているのではないか。
 - ・民俗事象の調査には動画や映像資料を活用していただきたい。
- 委員
- ・民俗調査の対象は古老に限定しているのではない。様々な世代から聞き取り調査を行いたい。新型コロナウイルスの影響により従来の調査が行えるか不透明な部分があるので、調査方法も含め部会で話し合っていきたい。
- 委員
- ・民俗伝承を書籍の最初に持つと、伝承から歴史が編まれている印象を与えかねないため、冒頭ではなく中ほどに配置するのが良い。
- 委員
- ・市誌の活用を考えたとき、民俗編では指定文化財との関係を考えなくては行けない。少なくとも安曇野市が指定している文化財は章立てや内容に含めてほしい。また、調査の中で安曇野市にとって外すことができないと考えられるものは、文化財の指定をする必要がある。
- 委員
- ・旧5町村誌の民俗編の記述の分析や評価はされるのか。旧5町村誌の記述の課題から安曇野市誌の新たな章立てが出てきているのか。
- 委員
- ・今までの市町村誌の評価分析はしていない。記述の評価は研究者が自治体誌同士を比較し行うもので、安曇野市誌を編さんするという作業にはあまり関係がないと考える。民俗学では従来の衣・食・住といった分類が章立ての基本となっているが、それは資料集としては都合の良い分類であるが、読み物としては分かりにくい。安曇野市誌では読み物として新しいものを作ることを重視している。
- 委員
- ・分断した旧5町村の記述から、広域の安曇野市での民俗をまとめていきたいということだろう。従来、自治体誌には研究論文のような内容の学術的な評価や内容の精査は行われていない。あくまで安曇野市が求める民俗編の記述は何かが問題になる。
- 委員
- ・章立ての問題は民俗編に限らず、この後も各分野で検討していただきたい。
- 委員
- ・最終的には書籍という限りあるものの中で内容をまとめるため、安曇野市民全員が納得するというものができるわけではない。記述はある程度執筆者の個性にまかせたい。その上で、安曇野市にとって必要な、使いやすい内容とはどういうものか軸を明確化させていただきたい。例えば観光業には景観に関する記述が必要となるし、防災政策には災害に関する記述が必要になると思う。そうしたところを教育委員会として意見をまとめていただきたい。
- 委員
- ・本編と資料編の構成は表裏一体の関係にあるため、どちらか一方のみを進めるのではなく、常に内容の連携を図りながら準備をすすめていただきたい。
- 委員
- ・本編と資料編だけでなく、子ども版は同時並行で考えていただきたい。
- 委員
- ・子ども版については、学校現場での活用を重視する時、学区ごと偏りのない記述があるとあり

がたい。地区に偏りのない記述が今後も大きな検討事項になると考える。

4 その他

事務局 ・次回会議は10月下旬から11月上旬を予定している。

5 閉会

以上